

# 讃岐っ子、前年よりちょっと小柄になるも、肥満の改善は進む

平成21年度 学校保健統計調査結果(香川県分)

## □ 調査の概要

学校保健統計調査は、文部科学省が、幼児、児童及び生徒(以下「児童等」という。)の発育状態及び健康状態を明らかにするために、昭和23年から毎年実施している基幹統計調査です。

文部科学大臣が指定した県内149校(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)に在籍する5歳から17歳(平成21年4月1日現在満年齢)までの児童等を対象に、平成21年4月～6月に行われた健康診断の結果をもとに調査を実施したものです。

## □ 調査結果の概要

### ◆発育状態調査

#### ◇身長

- ・前年に比べ、男女とも過半の年齢で下回る。
- ・全国平均に比べ、6歳男子、7歳女子を除くすべての年齢で下回る。

#### ◇体重

- ・前年に比べ、男女とも過半の年齢で下回る。
- ・全国平均に比べ、男女とも過半の年齢で下回る。
- ・14歳男子が過去最高を更新。

#### ◇座高

- ・前年に比べ、男女とも過半の年齢で下回る。
- ・全国平均に比べ、男女とも過半の年齢で下回る。

#### ◇肥満傾向児の出現率

- ・前年に比べ、男女とも過半の年齢で下回り、全体的に改善傾向がみられる。
- ・全国平均に比べ、男女とも過半の年齢で上回る。

#### ◇痩身傾向児の出現率

- ・前年に比べ、男女とも過半の年齢で上回る。

### ◆健康状態調査

#### ◇むし歯(う歯)のうち未処置歯のある者の割合

- ・前年に比べ、幼稚園・小学校は低下、中学校・高等学校は上昇。
- ・全国値に比べ、小学校・中学校・高等学校は下回る。

#### ◇裸眼視力1.0未満の者の割合

- ・前年に比べ、幼稚園は低下、小学校・中学校・高等学校は上昇。
- ・全国値に比べ、中学校・高等学校は上回る。

## □ 調査対象

区分	学校数 (校)	調査対象校		在籍者数 (人)	調査対象者				
		実数 (校)	割合 (%)		発育状態		健康状態		
					実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	
合計	482	149	30.9	116,900	12,880	11.0	65,392	55.9	
内訳	幼稚園	171	31	18.1	5,603	1,085	19.4	1,572	28.1
	小学校	188	57	30.3	57,458	5,312	9.2	28,504	49.6
	中学校	80	37	46.3	28,173	4,363	15.5	18,619	66.1
	高等学校	43	24	55.8	25,666	2,120	8.3	16,697	65.1

※発育状態は、調査対象校の該当年齢の無作為抽出児童等が対象で、健康状態は、調査対象校の該当年齢の全児童等が対象である。  
※学校数は、学校基本調査結果による。

## ■ 発育状態調査

### 【身長】

身長(平均値)は、前年と比較すると、男子の5,9~14歳で前年を下回るなど、男女とも前年を下回る年齢が多くなっています。(13年齢区分中、男子は増加2・減少7、女子は増加5・減少7)

全国との比較では、6歳男子・7歳女子を除き、男女ともすべての年齢で全国平均を下回っています。

(表1.図1)

各年齢間の身長差をみると、男子は11~12歳の間が7.7cm、女子は10~11歳の間が7.0cmと最も大きくなっています。(図2)

30年前(親の世代)の昭和54年度と比較すると、すべての年齢で親の世代の値を超えており、特に12歳男子で3.6cm、9,11歳女子で2.0cmと最も伸びています。(表1.図3)

表1 年齢別身長の平均値

(cm)

区分	年齢	男 子						女 子							
		平成 21 年度			昭和 54 年度			平成 21 年度			昭和 54 年度				
		香川県		全 国	順位	香川県		順位	香川県		全 国	順位	香川県		
		A	対前年差	B		A-B	C		A-C	A	対前年差		B	A-B	C
幼稚園	5歳	110.3	△ 0.4	110.7	△ 0.4	36	109.7	0.6	109.6	0.4	109.9	△ 0.3	34	108.9	0.7
小学校	6歳	116.7	0.0	116.7	0.0	22	115.2	1.5	115.6	△ 0.1	115.8	△ 0.2	30	114.7	0.9
	7歳	122.4	0.0	122.6	△ 0.2	28	121.0	1.4	*121.9	0.2	121.7	0.2	10	120.5	1.4
	8歳	128.0	0.2	128.3	△ 0.3	30	126.3	1.7	127.1	0.3	127.5	△ 0.4	35	125.8	1.3
	9歳	132.6	△ 0.4	133.6	△ 1.0	45	131.5	1.1	133.2	△ 0.2	133.5	△ 0.3	37	131.2	2.0
	10歳	138.2	△ 0.7	138.9	△ 0.7	41	136.9	1.3	139.7	△ 0.5	140.3	△ 0.6	39	138.6	1.1
	11歳	144.3	△ 0.8	145.1	△ 0.8	40	142.5	1.8	146.7	0.2	146.9	△ 0.2	26	144.7	2.0
中学校	12歳	152.0	△ 0.2	152.5	△ 0.5	36	148.4	3.6	151.5	△ 0.4	151.9	△ 0.4	36	149.7	1.8
	13歳	159.4	△ 0.3	159.7	△ 0.3	30	156.8	2.6	154.5	0.0	154.9	△ 0.4	37	153.4	1.1
	14歳	164.6	△ 0.5	165.2	△ 0.6	36	162.6	2.0	156.0	△ 0.1	156.7	△ 0.7	44	154.9	1.1
高等学校	15歳	167.8	0.0	168.5	△ 0.7	35	166.2	1.6	156.6	△ 0.4	157.3	△ 0.7	41	155.7	0.9
	16歳	169.2	0.0	169.9	△ 0.7	37	167.8	1.4	157.3	0.4	157.7	△ 0.4	31	155.8	1.5
	17歳	170.4	0.1	170.8	△ 0.4	33	169.1	1.3	157.0	△ 0.8	157.9	△ 0.9	44	156.3	0.7

(注) \*は過去の記録を更新したものを示す。  
\*121.9 は、全国平均を上回るものを示す。

図1 全国平均値との差

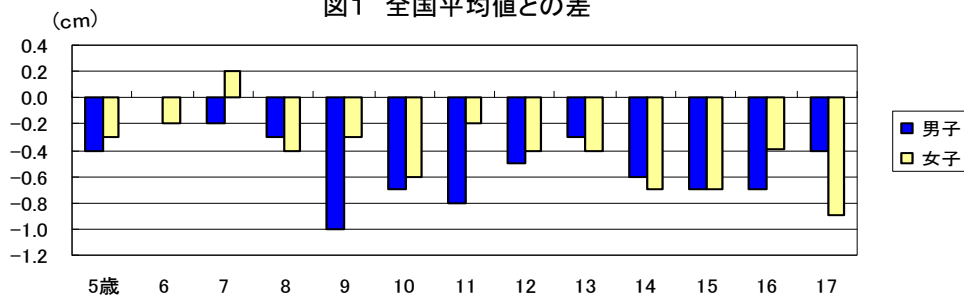
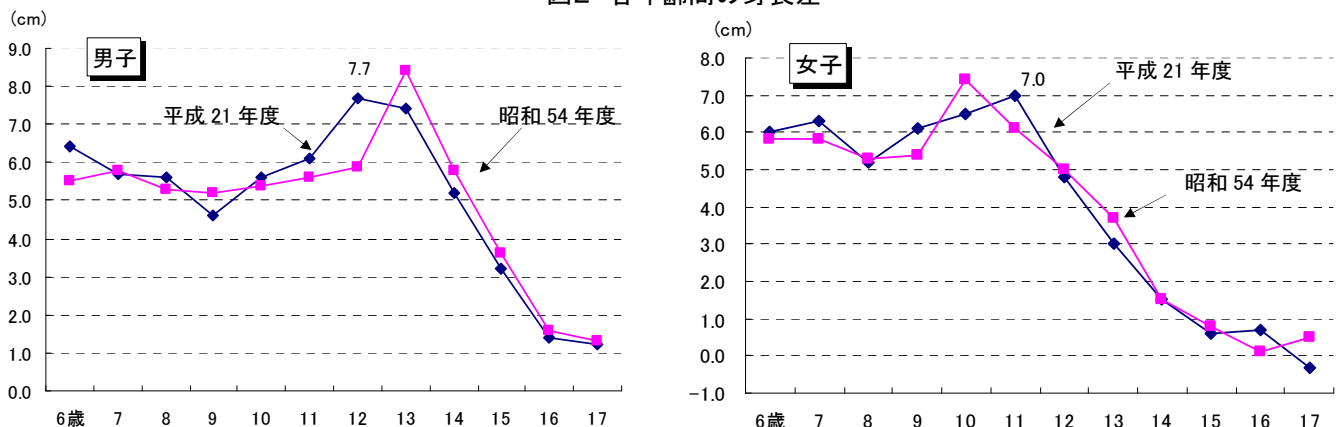
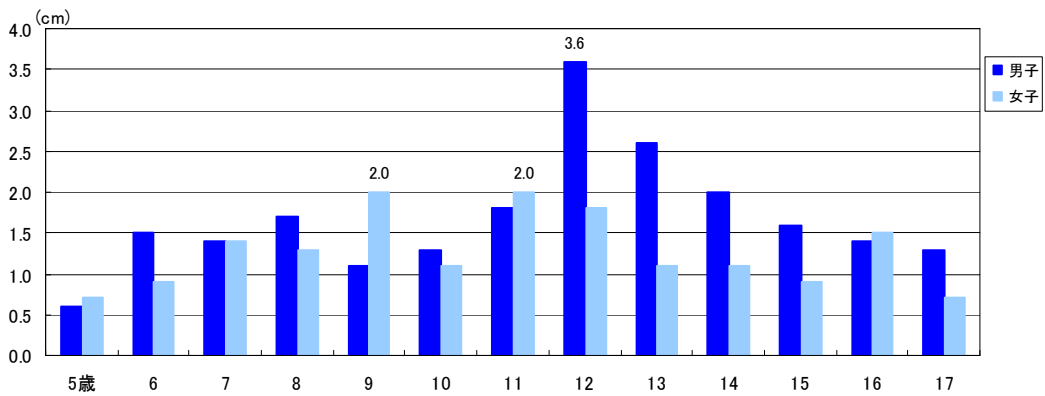


図2 各年齢間の身長差



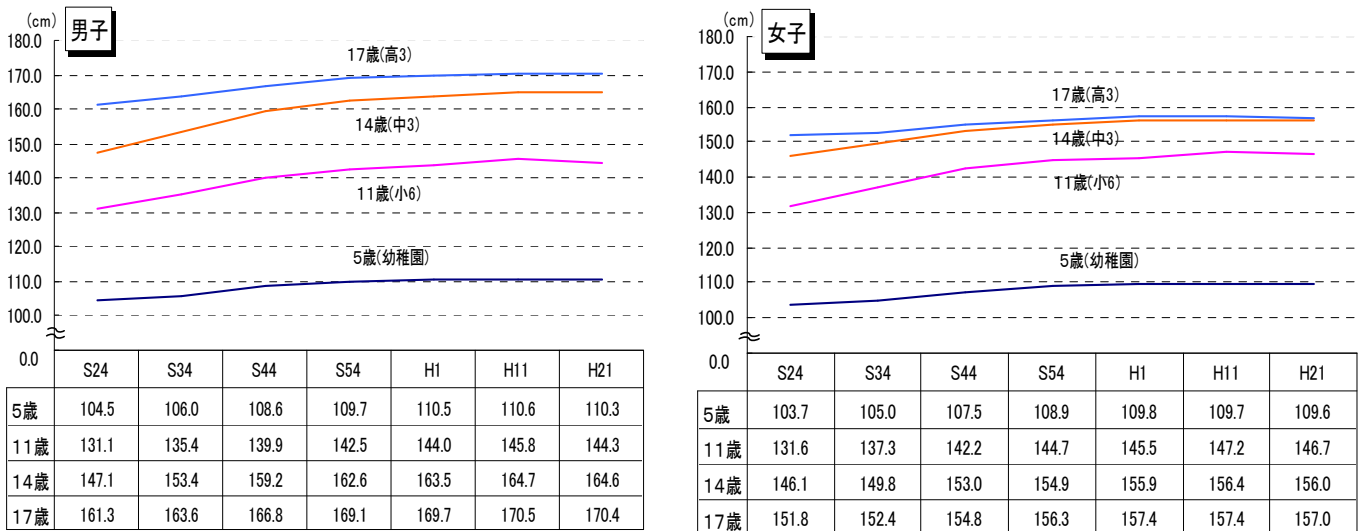
(注) 図中の6歳は(6歳-5歳)であり、7歳は(7歳-6歳)となっている。以下の各図においても同じ。

図3 身長における30年前(親の世代)との比較(平成21年度ー昭和54年度)



各学校種別の最高学年の身長について、60年間の推移を10年ごとにみると、女子の5歳(幼稚園)と17歳(高3)を除き、10年前(平成11年度)までは男女とも順調に伸びていましたが、本年は10年前よりすべての最高学年で低下しています。(図4)

図4 身長の平均値の推移(昭和24年度～平成21年度の10年間隔)



## 【体 重】

体重(平均値)は、前年と比較すると、男子の5～7, 9～13, 17歳で前年を下回るなど、男女とも前年を下回る年齢が多くなっています。(13年齢区分中、男子は増加3・減少9、女子は増加4・減少8)

全国との比較では、男子は8, 13～16歳、女子は5～7, 11, 13, 15歳を除き、全国平均を下回っています。(男子は高4・低8、女子は高6・低7)(表2. 図5)

各年齢間の体重差をみると、男子は13～14歳の間が6.7kg、女子は10～11歳の間が5.2kgと最も大きくなっています。(図6)

30年前(親の世代)の昭和54年度と比較すると、17歳女子を除くすべての年齢で親の世代の値を超えており、特に15歳男子で3.9kg、11歳女子で1.6kgと最も増加しています。(表2. 図7)

表2 年齢別体重の平均値

(kg)

区 分		男 子						女 子							
		平成 21 年度			昭和 54 年度			平成 21 年度			昭和 54 年度				
		香川県		全 国	順位	香川県		順位	香川県		全 国	順位	香川県		
		A	対前年差	B		A-B	C		A-C	A	対前年差		B	A-B	C
幼稚園	5歳	18.9	△ 0.3	19.0	△ 0.1	23	18.6	0.3	18.8	0.3	18.6	0.2	12	18.2	0.6
小学校	6歳	21.3	△ 0.3	21.5	△ 0.2	28	20.6	0.7	21.1	0.0	21.0	0.1	12	20.8	0.3
	7歳	24.0	△ 0.3	24.1	△ 0.1	32	22.8	1.2	23.8	△ 0.1	23.5	0.3	11	22.5	1.3
	8歳	27.2	0.4	27.2	0.0	21	25.5	1.7	26.1	0.1	26.5	△ 0.4	38	25.3	0.8
	9歳	30.1	△ 0.4	30.6	△ 0.5	35	28.3	1.8	29.8	△ 0.8	30.0	△ 0.2	30	28.5	1.3
	10歳	33.8	△ 0.9	34.2	△ 0.4	29	32.1	1.7	33.9	△ 0.6	34.1	△ 0.2	23	32.9	1.0
	11歳	37.9	△ 0.3	38.4	△ 0.5	25	36.0	1.9	39.1	0.5	39.0	0.1	20	37.5	1.6
中学校	12歳	44.0	△ 0.8	44.2	△ 0.2	26	40.6	3.4	43.7	△ 0.9	43.8	△ 0.1	24	42.3	1.4
	13歳	49.4	△ 0.6	49.1	0.3	15	46.5	2.9	47.4	△ 0.6	47.3	0.1	21	46.7	0.7
	14歳	*56.1	0.8	54.3	1.8	4	52.4	3.7	50.1	△ 0.6	50.2	△ 0.1	27	49.5	0.6
高等学校	15歳	60.5	0.6	59.5	1.0	10	56.6	3.9	51.8	△ 1.1	51.6	0.2	20	51.3	0.5
	16歳	61.7	0.0	61.3	0.4	18	58.7	3.0	52.7	0.4	52.8	△ 0.1	27	52.1	0.6
	17歳	62.6	△ 1.1	63.1	△ 0.5	37	60.1	2.5	52.2	△ 1.1	52.9	△ 0.7	42	52.2	0.0

(注) \*は過去の記録を更新したものを示す。  
 は、全国平均を上回るものを示す。

図5 全国平均値との差

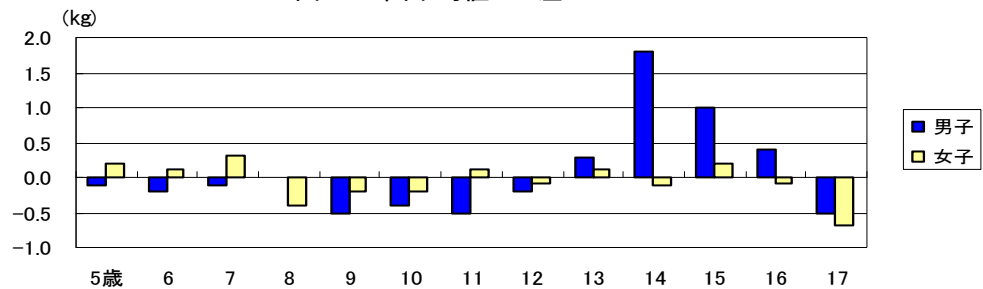


図6 各年齢間の体重差

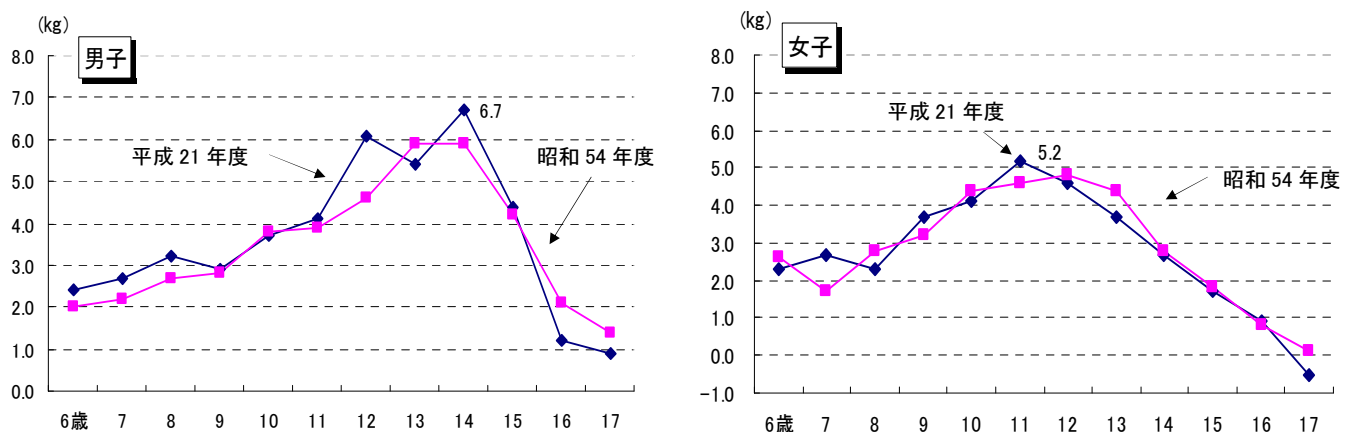
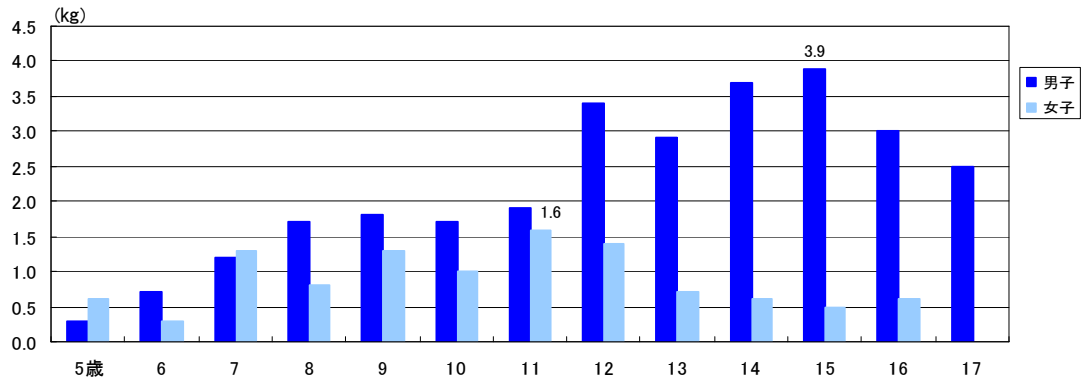
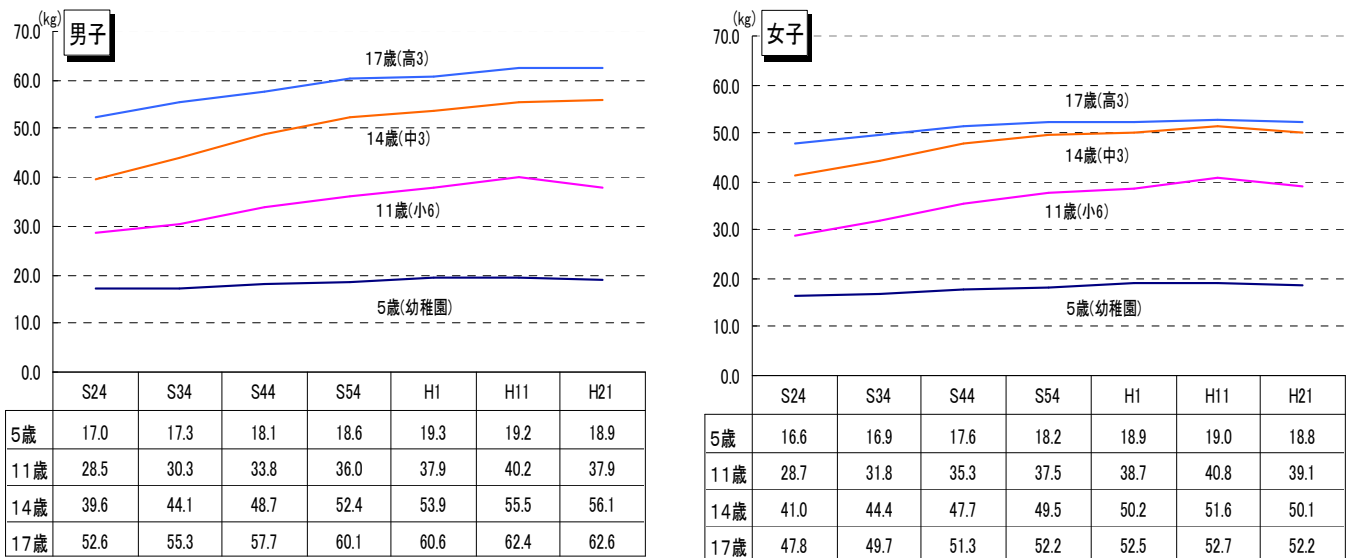


図7 体重における30年前(親の世代)との比較(平成21年度ー昭和54年度)



各学校種別の最高学年の体重について、60年間の推移を10年ごとにみると、男子の5歳(幼稚園)を除き、10年前(平成11年度)までは男女とも順調に増加していましたが、本年は10年前より男子の14歳(中3)、17歳(高3)を除いた最高学年で減少しています。(図8)

図8 体重の平均値の推移(昭和24年度～平成21年度の10年間隔)



## 【座高】

座高(平均値)は、前年と比較すると、女子の6,9,10,12~17歳で前年を下回るなど、男女とも前年を下回る年齢が多くなっています。(13年齢区分中、男子は増加4・減少7、女子は増加2・減少9)

全国との比較では、男子は5,6,8歳、女子は5~9,11歳を除き、全国平均を下回っています。(男子は高2・低10、女子は高3・低7) (表3. 図9)

各年齢間の座高差をみると、男子は12~13歳の間が3.7cm、女子は10~11歳の間が3.7cmと最も大きくなっています。(図10)

30年前(親の世代)の昭和54年度と比較すると、男女とも5歳を除くすべての年齢で親の世代の値を超えており、特に12歳男子で1.7cm、11歳女子で1.4cmと最も伸びています。(表3. 図11)

表3 年齢別座高の平均値 (cm)

区分		男 子						女 子							
		平成 21 年度			昭和 54 年度			平成 21 年度			昭和 54 年度				
		香川県		全 国	香川県		順位	香川県		全 国	香川県		順位	香川県	
		A	対前年差	B	A-B		C	A-C	A	対前年差	B	A-B		C	A-C
幼稚園	5歳	61.9	△ 0.2	61.9	0.0	23	62.2	△ 0.3	61.5	0.0	61.5	0.0	23	61.9	△ 0.4
小学校	6歳	65.0	△ 0.1	64.9	0.1	16	64.7	0.3	64.6	△ 0.2	64.5	0.1	12	64.2	0.4
	7歳	67.6	△ 0.2	67.7	△ 0.1	30	67.2	0.4	67.5	0.1	67.3	0.2	6	66.8	0.7
	8歳	70.4	0.4	70.3	0.1	16	69.5	0.9	70.0	0.2	70.0	0.0	21	69.2	0.8
	9歳	72.4	△ 0.1	72.7	△ 0.3	40	71.7	0.7	72.7	△ 0.2	72.7	0.0	23	71.5	1.2
	10歳	74.7	△ 0.5	75.0	△ 0.3	39	74.3	0.4	75.7	△ 0.2	75.9	△ 0.2	36	75.2	0.5
	11歳	77.4	△ 0.6	77.6	△ 0.2	37	76.5	0.9	79.4	0.0	79.3	0.1	16	78.0	1.4
中学校	12歳	80.9	0.0	81.3	△ 0.4	40	79.2	1.7	81.7	△ 0.2	82.1	△ 0.4	43	81.2	0.5
	13歳	84.6	△ 0.2	84.9	△ 0.3	38	83.2	1.4	83.2	△ 0.2	83.7	△ 0.5	46	83.0	0.2
	14歳	87.9	0.0	88.1	△ 0.2	27	86.5	1.4	84.3	△ 0.4	84.8	△ 0.5	46	83.9	0.4
高等学校	15歳	89.9	0.1	90.3	△ 0.4	39	88.5	1.4	85.0	△ 0.4	85.3	△ 0.3	41	84.5	0.5
	16歳	90.5	0.1	91.2	△ 0.7	47	89.2	1.3	85.1	△ 0.2	85.6	△ 0.5	44	84.7	0.4
	17歳	91.5	0.3	91.8	△ 0.3	34	90.2	1.3	85.1	△ 0.6	85.7	△ 0.6	45	84.6	0.5

(注) は、全国平均を上回るものを示す。

図9 全国平均値との差

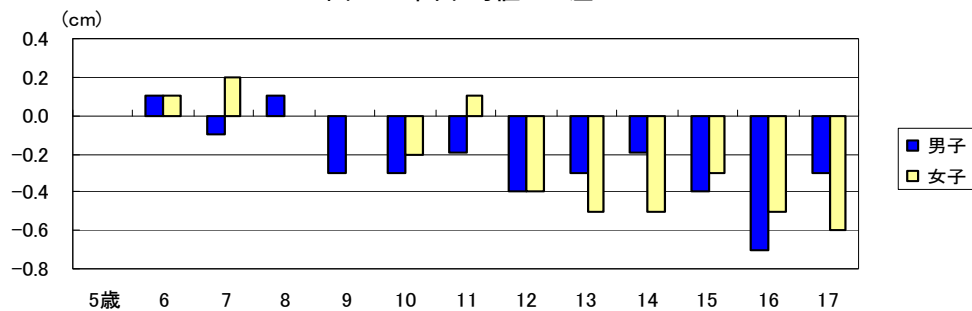


図10 各年齢間の座高差

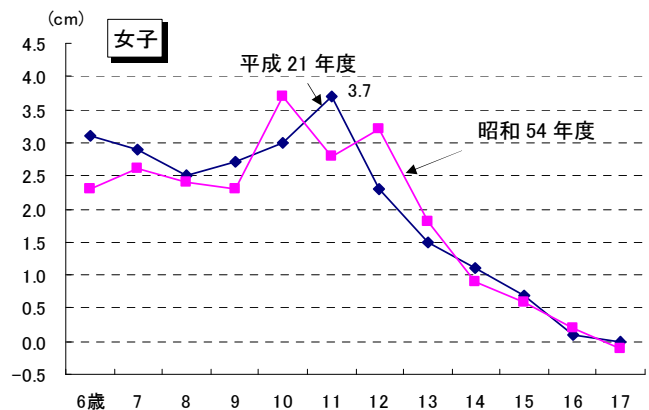
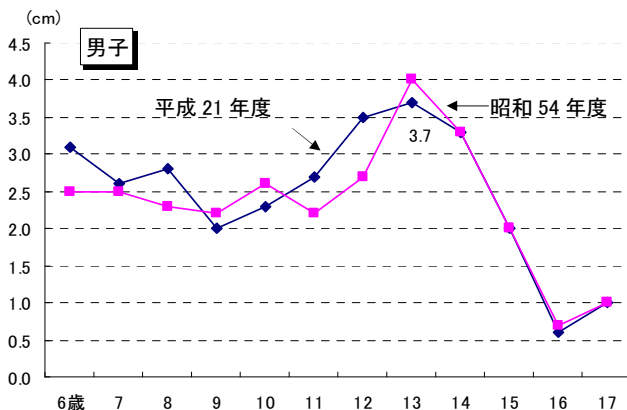
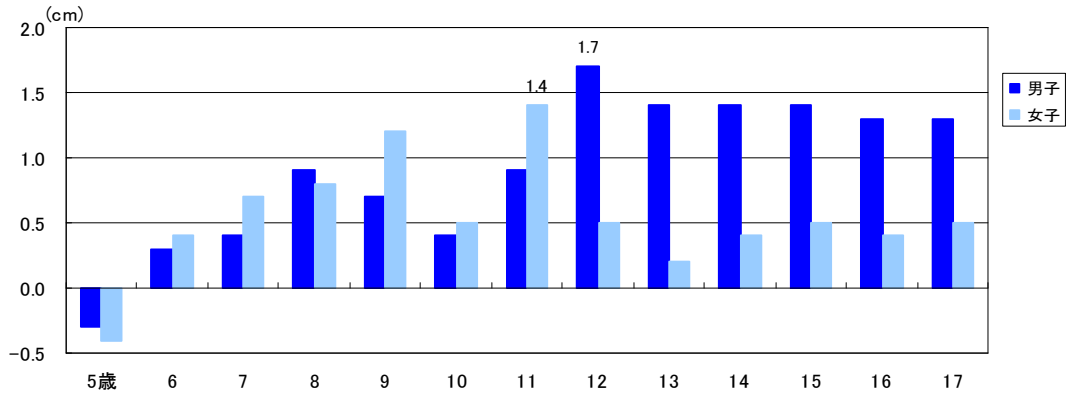
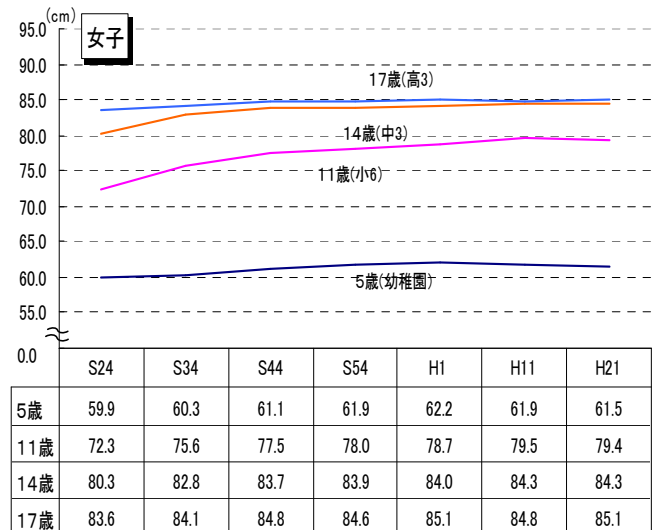
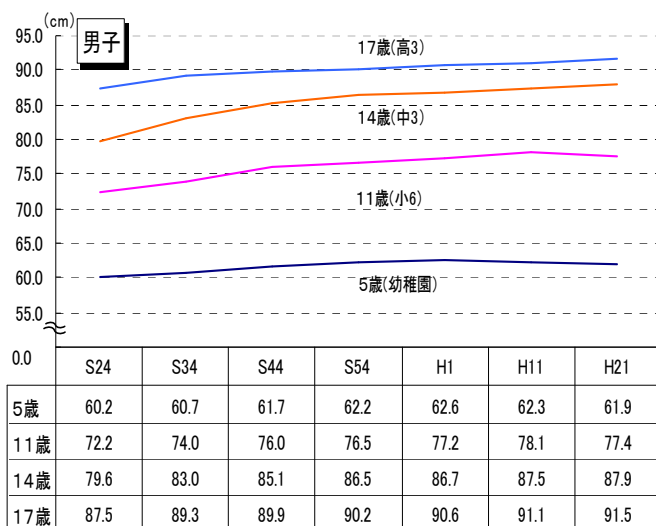


図 11 座高における 30 年前(親の世代)との比較(平成 21 年度－昭和 54 年度)



各学校種別の最高学年の座高について、60 年間の推移を 10 年ごとにみると、20 年前(平成元年度)までは男女とも順調に伸びていましたが、以降は伸びの鈍化や低下がみられます。(図 12)

図 12 座高の平均値の推移(昭和 24 年度～平成 21 年度の 10 年間隔)



## 【肥満傾向児の出現率】

肥満傾向児の出現率は、前年と比較すると、男子は8, 14, 16歳を除く各年齢で、女子は5~7, 11, 14, 16歳を除く各年齢で低下しており、全体的に改善傾向がみられます。(13年齢区分中、男子は上昇3・低下10、女子は上昇6・低下7)

全国との比較では、男子は7~10, 14~16歳、女子は5~7, 9~11, 14~17歳で全国平均を上回っています。(男子は高7・低6、女子は高10・低3)

各年齢別の出現率をみると、男子が14歳で14.54%、女子が15歳で10.64%と最も高くなっています。(表4. 図13)

表4 肥満傾向児の出現率

区分	年齢	計					男子					女子				
		香川県		全国		順位	香川県		全国		順位	香川県		全国		順位
		A	対前年差	B	A-B		A	対前年差	B	A-B		A	対前年差	B	A-B	
幼稚園	5歳	3.57	0.48	2.70	0.87	12	2.18	△ 0.70	2.75	△ 0.57	34	4.99	1.68	2.65	2.34	3
小学校	6歳	5.59	△ 0.77	4.36	1.23	13	3.44	△ 2.50	4.55	△ 1.11	37	7.87	1.06	4.17	3.70	5
	7歳	6.84	△ 0.39	5.50	1.34	12	6.42	△ 0.88	5.60	0.82	22	7.27	0.11	5.40	1.87	10
	8歳	7.15	0.39	7.30	△ 0.15	25	8.87	1.86	7.53	1.34	17	5.31	△ 1.20	7.05	△ 1.74	40
	9歳	9.64	△ 2.21	8.60	1.04	14	9.66	△ 2.55	9.57	0.09	26	9.61	△ 1.85	7.58	2.03	9
	10歳	10.24	△ 1.49	9.54	0.70	15	10.87	△ 2.15	10.76	0.11	22	9.57	△ 0.79	8.26	1.31	15
	11歳	9.24	1.13	9.69	△ 0.45	24	8.94	△ 0.43	10.61	△ 1.67	29	9.56	2.76	8.74	0.82	16
中学校	12歳	9.98	△ 1.58	10.29	△ 0.31	24	11.34	△ 1.38	11.49	△ 0.15	22	8.56	△ 1.82	9.04	△ 0.48	25
	13歳	8.39	△ 1.80	8.94	△ 0.55	32	9.25	△ 1.23	9.71	△ 0.46	28	7.52	△ 2.38	8.13	△ 0.61	33
	14歳	12.03	1.84	8.89	3.14	3	14.54	2.90	9.55	4.99	1	9.41	0.73	8.21	1.20	14
高等学校	15歳	12.44	△ 1.73	10.32	2.12	10	14.24	△ 1.47	12.11	2.13	11	10.64	△ 1.94	8.47	2.17	11
	16歳	10.71	1.14	9.75	0.96	17	12.42	1.01	11.20	1.22	15	8.95	1.28	8.27	0.68	18
	17歳	9.58	△ 3.25	9.83	△ 0.25	28	10.59	△ 4.71	11.27	△ 0.68	32	8.53	△ 1.83	8.35	0.18	25

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。  
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

図13 肥満傾向児の年齢別出現率

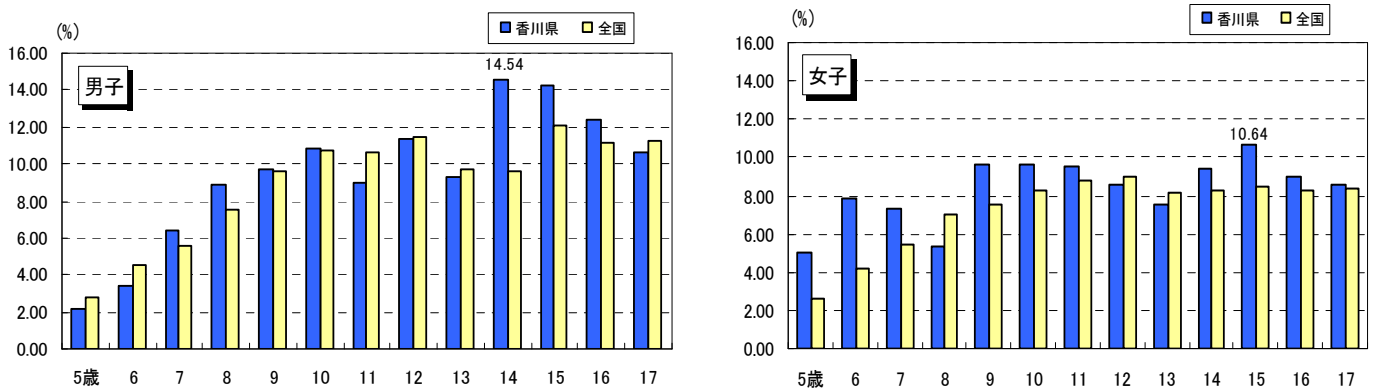
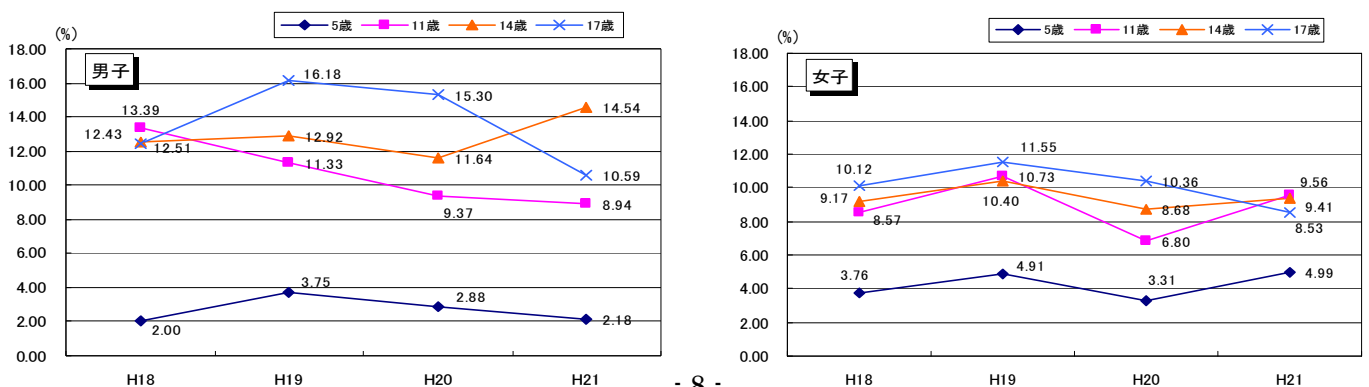


図14 肥満傾向児の出現率の推移





### 【痩身傾向児の出現率】

痩身傾向児の出現率は、前年と比較すると、男子は5, 11, 15, 17歳を除く各年齢で、女子は7, 8, 11, 13, 15, 16歳を除く各年齢で上昇しています。(13年齢区分中、男子は上昇9・低下4、女子は上昇7・低下6)

全国との比較では、男子は6~9, 16歳、女子は6, 10, 17歳を除き、全国平均を下回っています。(男子は高5・低8、女子は高3・低10)

各年齢別の出現率をみると、男子は10歳で2.50%、女子は12歳で3.91%と最も高くなっています。(表5. 図15)

表5 痩身傾向児の出現率

(%)

区分	年齢	計					男子					女子				
		香川県 A	対前年差	全国 B	A-B	順位	香川県 A	対前年差	全国 B	A-B	順位	香川県 A	対前年差	全国 B	A-B	順位
幼稚園	5歳	0.29	△ 0.02	0.42	△ 0.13	26	0.13	△ 0.27	0.34	△ 0.21	34	0.45	0.23	0.51	△ 0.06	16
	6歳	1.09	0.68	0.52	0.57	2	0.93	0.75	0.44	0.49	6	1.26	0.61	0.60	0.66	2
小学校	7歳	0.62	△ 0.16	0.47	0.15	14	0.95	0.25	0.43	0.52	2	0.26	△ 0.60	0.52	△ 0.26	40
	8歳	1.10	△ 0.28	1.12	△ 0.02	26	1.25	0.15	1.06	0.19	17	0.93	△ 0.74	1.18	△ 0.25	31
	9歳	1.66	0.57	1.74	△ 0.08	24	1.82	0.37	1.69	0.13	17	1.49	0.78	1.79	△ 0.30	31
	10歳	3.08	1.39	2.68	0.40	9	2.50	0.37	2.57	△ 0.07	22	3.70	2.47	2.80	0.90	3
	11歳	1.88	△ 0.89	3.00	△ 1.12	43	1.99	△ 0.77	3.28	△ 1.29	43	1.77	△ 1.01	2.70	△ 0.93	39
中学校	12歳	2.93	1.28	3.35	△ 0.42	28	1.99	1.03	2.38	△ 0.39	34	3.91	1.57	4.37	△ 0.46	21
	13歳	1.99	0.14	2.64	△ 0.65	37	1.47	0.40	1.68	△ 0.21	26	2.51	△ 0.14	3.64	△ 1.13	36
	14歳	1.43	0.15	2.44	△ 1.01	43	1.15	0.11	1.94	△ 0.79	40	1.72	0.18	2.95	△ 1.23	43
高等学校	15歳	1.69	△ 0.08	2.50	△ 0.81	37	1.14	△ 0.15	2.45	△ 1.31	43	2.25	△ 0.03	2.55	△ 0.30	26
	16歳	1.25	0.50	1.86	△ 0.61	40	2.05	1.56	1.85	0.20	22	0.44	△ 0.57	1.86	△ 1.42	47
	17歳	1.73	0.65	1.73	0.00	22	0.87	△ 0.29	1.77	△ 0.90	41	2.61	1.62	1.69	0.92	4

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。  
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

図15 痩身傾向児の年齢別出現率

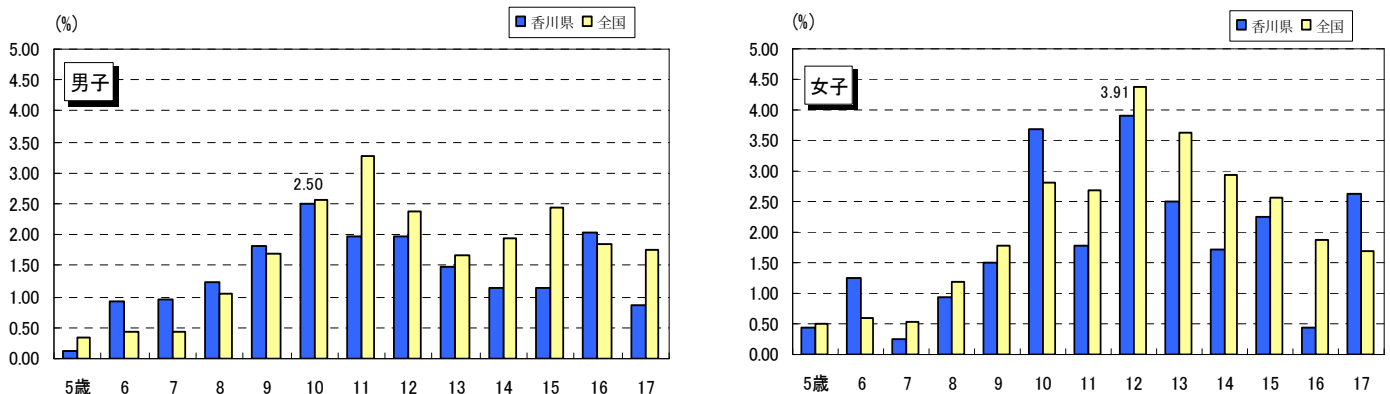
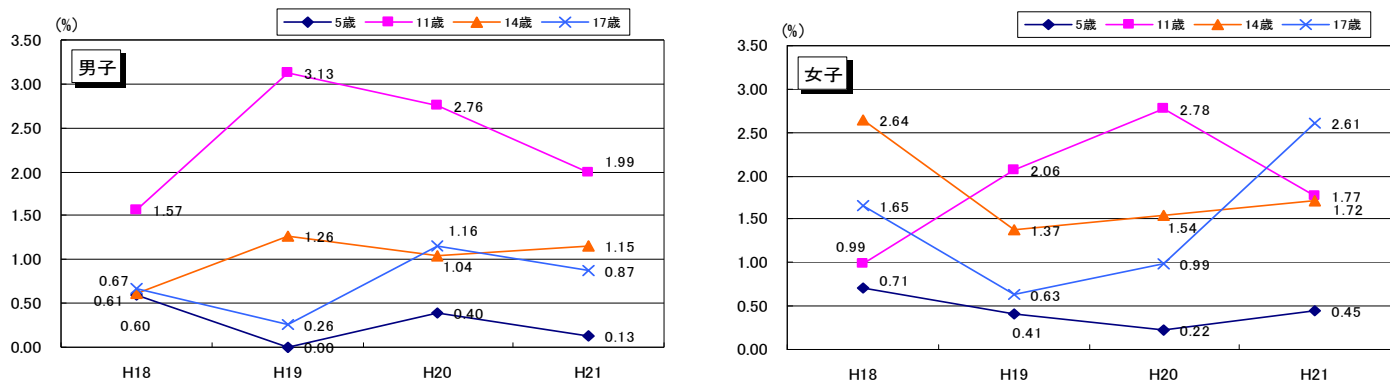


図16 痩身傾向児の出現率の推移



## 健康状態調査

### 【主な疾病・異常被患率等】

各年齢別の主な疾病・異常被患率をみると、「裸眼視力 1.0 未満」は、年齢が進むにつれて被患率が高くなる傾向があり、その一方で「耳疾患」「鼻・副鼻腔疾患」などについては年齢が進むにつれて被患率が低くなる傾向があります。(表 6)

表 6 疾病・異常の被患率等

(%)

区 分	裸眼視力				眼の疾 病・異 常	耳鼻咽頭			歯・口腔			アトピ ー性皮 膚炎	心電図 異常	蛋白検 出の者	ぜん息	
	計	1.0 未 満 0.7 以上	0.7 未 満 0.3 以上	0.3 未 満		耳疾患	鼻・副 鼻腔疾 患	口腔 咽喉頭 疾患・ 異常	むし歯(う歯)							
									計	処置完 了者	未処置 歯のある 者					
幼稚園	5 歳	18.4	12.7	4.9	0.8	3.2	5.6	6.7	0.8	54.3	20.5	33.9	3.3	…	0.5	0.7
小 学 校	計	29.5	9.3	12.0	8.2	4.2	5.5	13.3	1.3	65.0	34.5	30.4	3.7	4.5	0.6	2.5
	6 歳	15.1	9.9	4.4	0.7	3.8	8.6	14.2	2.1	63.4	26.5	36.9	4.2	4.5	0.6	2.9
	7 歳	18.6	7.7	8.3	2.5	3.4	6.1	13.0	1.4	69.3	33.8	35.6	3.7	…	0.2	2.4
	8 歳	28.3	10.9	11.2	6.2	4.1	5.5	14.4	1.3	72.8	40.2	32.5	4.3	…	0.4	2.5
	9 歳	35.1	10.6	14.7	9.8	4.7	4.4	12.0	1.0	69.5	37.9	31.6	3.4	…	0.6	2.8
	10 歳	36.7	7.1	15.1	14.5	4.7	4.9	13.5	1.4	60.9	33.7	27.2	2.9	…	0.7	2.1
中 学 校	11 歳	42.7	9.7	17.7	15.3	4.3	3.4	12.7	0.7	53.9	35.0	19.0	3.8	…	0.8	2.1
	計	58.2	9.9	18.5	29.7	3.9	4.1	9.2	0.5	54.6	33.6	21.0	2.8	3.7	1.1	3.3
	12 歳	49.7	11.1	15.1	23.6	5.2	5.5	10.9	0.5	51.1	32.7	18.4	2.5	3.7	0.7	2.9
	13 歳	61.5	X	X	X	3.1	3.5	7.6	0.6	52.9	32.4	20.5	3.0	…	1.1	3.4
高 等 学 校	14 歳	63.2	X	X	X	3.5	3.2	9.0	0.4	59.6	35.7	23.8	3.0	…	1.5	3.5
	計	72.4	20.9	27.7	23.7	3.5	2.4	8.3	0.1	62.2	37.3	24.8	3.0	3.8	1.0	1.8
	15 歳	X	X	X	X	3.8	3.6	9.0	0.3	56.1	34.4	21.7	3.1	3.8	1.0	1.8
	16 歳	X	X	X	X	3.5	2.2	7.7	—	63.8	37.7	26.0	2.7	…	1.1	1.9
17 歳	70.9	21.6	25.7	23.7	3.3	1.4	8.1	—	66.7	39.9	26.8	3.2	…	0.9	1.7	

(注) 1 この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載のあった者)の占める割合を示したものである。

2 「…」については、調査対象とならなかった場合である。「—」については、該当者がいない場合である。

3 「X」は、疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

4 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

以下の各表において同じ。

## 【学校種別疾病・異常被患率等】

幼稚園と小学校で「むし歯（う歯）」が最も高く、中学校と高等学校で「裸眼視力1.0未満」が最も高くなっています。（表7）

表7 学校種別疾病・異常の被患率等

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	むし歯（う歯）	54.3	むし歯（う歯）	65.0	裸眼視力1.0未満	58.2	裸眼視力1.0未満	72.4
2	裸眼視力1.0未満	18.4	裸眼視力1.0未満	29.5	むし歯（う歯）	54.6	むし歯（う歯）	62.2
3	鼻・副鼻腔疾患	6.7	鼻・副鼻腔疾患	13.3	鼻・副鼻腔疾患	9.2	歯垢の状態	9.6
4	耳疾患	5.6	耳疾患	5.5	歯列・咬合	9.1	鼻・副鼻腔疾患	8.3
5	アトピー性皮膚炎	3.3	歯・口腔(その他)	4.5	歯垢の状態	5.5	歯肉の状態	8.1
			心電図異常	4.5				

### ◎ むし歯(う歯)

むし歯(う歯)のある者の割合は、幼稚園が54.3%、小学校が65.0%、中学校が54.6%、高等学校が62.2%となっています。幼稚園・小学校・高等学校は、前年より低下していますが、中学校は上昇しています。年齢別にみると8歳が72.8%と最も高く、次いで9歳の69.5%となっています。うち未処置歯のある者の割合は、幼稚園・小学校で前年より低下していますが、中学校・高等学校は上昇しています。

また、処置完了者の割合は、8歳以上で未処置歯のある者を上回っています。（図17.表6.表8）

むし歯(う歯)のある者の推移を5年ごとにみると、15年前(平成6年度)までは、いずれの学校種別も90%前後でしたが、それ以降は年々低下傾向にあります。（図18）

図17 むし歯(う歯)のある者の割合

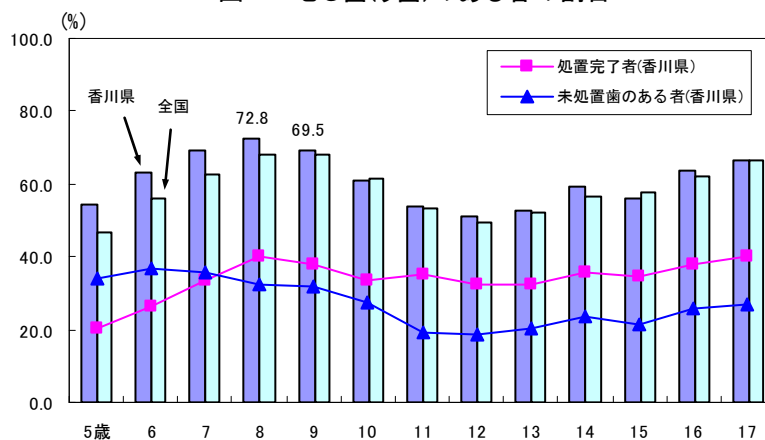
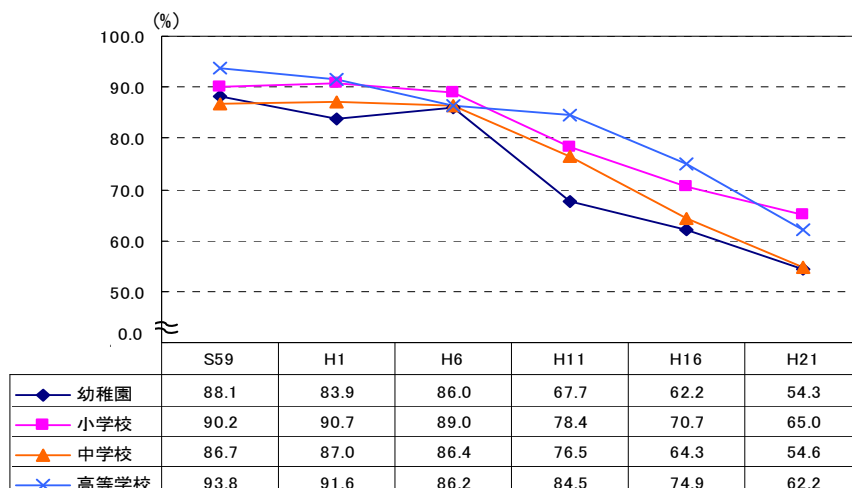


図18 むし歯(う歯)のある者の推移(5年間隔)



◎ 裸眼視力 1.0 未満の者

裸眼視力 1.0 未満の者の割合は、幼稚園が 18.4%、小学校が 29.5%、中学校が 58.2%、高等学校が 72.4% となっています。幼稚園は前年より低下していますが、小学校・中学校・高等学校は前年より上昇しています。裸眼視力 1.0 未満の者の割合の推移を 5 年ごとにみると、幼稚園を除いて年々上昇傾向にあります。特に中学校・高等学校では 5 年前に低下したものが本年は再び上昇しています。(図 19. 図 20. 表 8)

図 19 裸眼視力 1.0 未満の者の割合

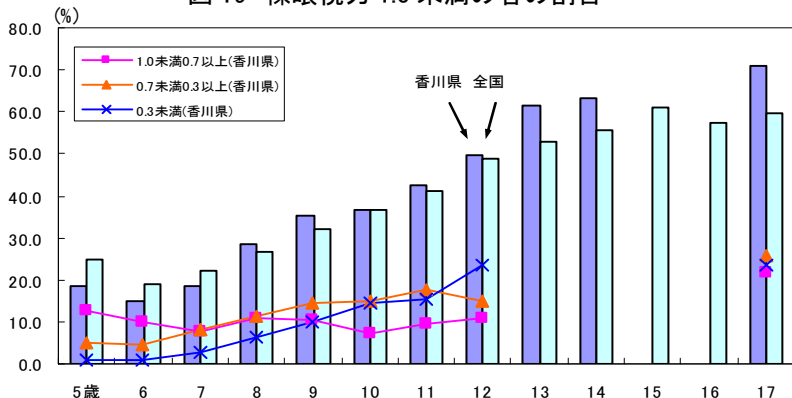
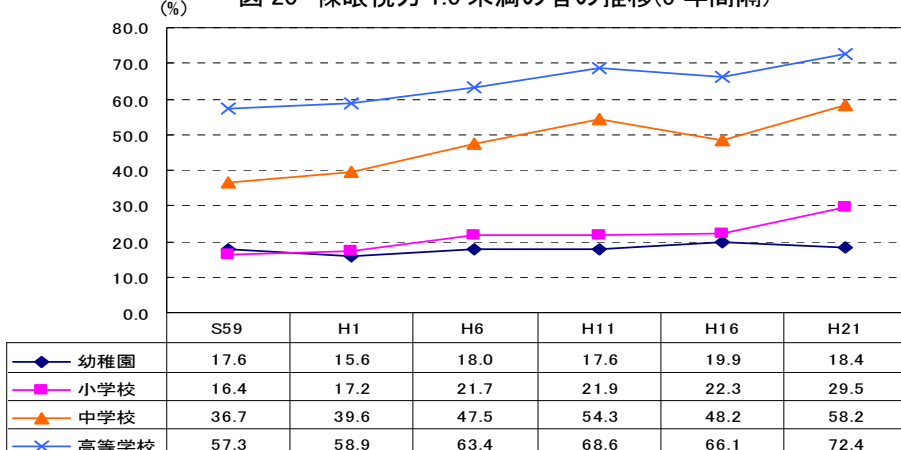


図 20 裸眼視力 1.0 未満の者の推移(5 年間隔)



◎ 鼻・副鼻腔疾患

鼻・副鼻腔疾患の者の割合は、幼稚園が 6.7%、小学校が 13.3%、中学校が 9.2%、高等学校が 8.3% となっています。年齢別にみると 6 歳～11 歳が 12%～14% 前後と高くなっています。小学校は前年より低下していますが、幼稚園・中学校・高等学校は前年より上昇しています。(図 21. 表 6. 表 8)

◎ アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の者の割合は、幼稚園が 3.3%、小学校が 3.7%、中学校が 2.8%、高等学校が 3.0% となっています。年齢別にみると 8 歳が 4.3% と最も高くなっています。すべての学校種別で前年より低下しています。(図 22. 表 6. 表 8)

図 21 鼻・副鼻腔疾患の者の割合

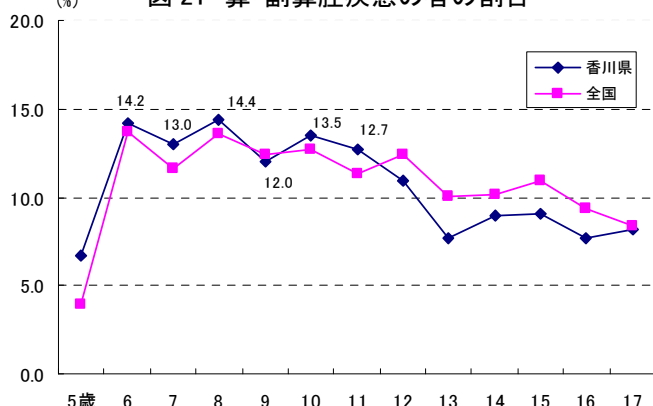
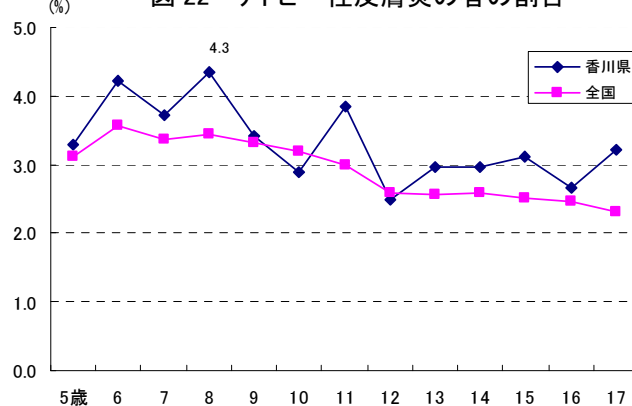


図 22 アトピー性皮膚炎の者の割合



## 【主な疾病・異常被患率等の全国比較】

主な疾病・異常被患率について全国と比較すると、「むし歯(う歯)のある者」については、すべての学校種別で全国を上回っていますが、うち「未処置歯のある者」については、幼稚園を除くすべての学校種別で全国を下回っています。

さらに、「耳疾患」と「アトピー性皮膚炎」については、すべての学校種別で全国を上回っています。

また、「鼻・副鼻腔疾患」については、幼稚園・小学校は全国を上回っていますが、中学校・高等学校は全国を下回っています。

反対に「裸眼視力 1.0 未満の者」については、幼稚園・小学校は全国を下回っていますが、中学校・高等学校は全国を上回っています。(表 8. 図 23)

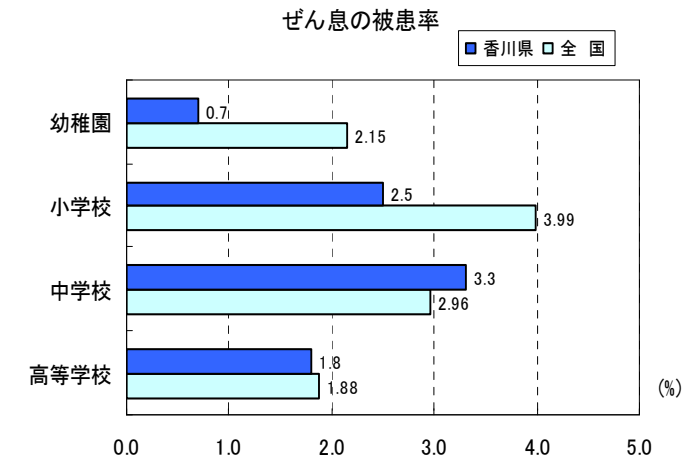
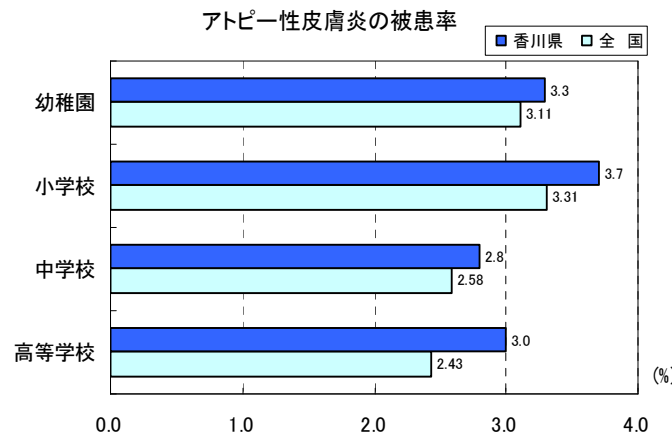
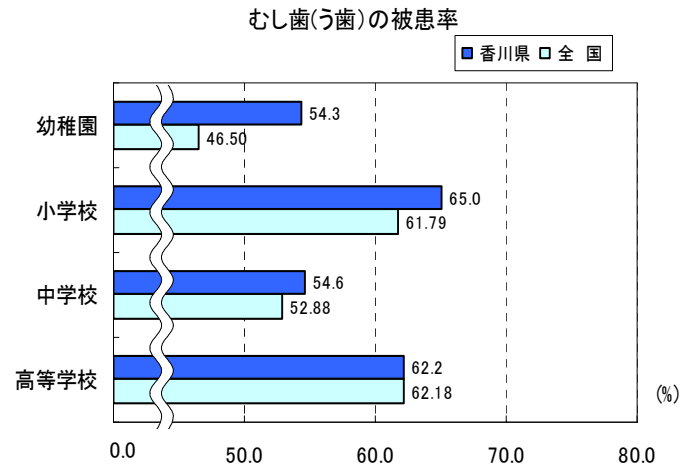
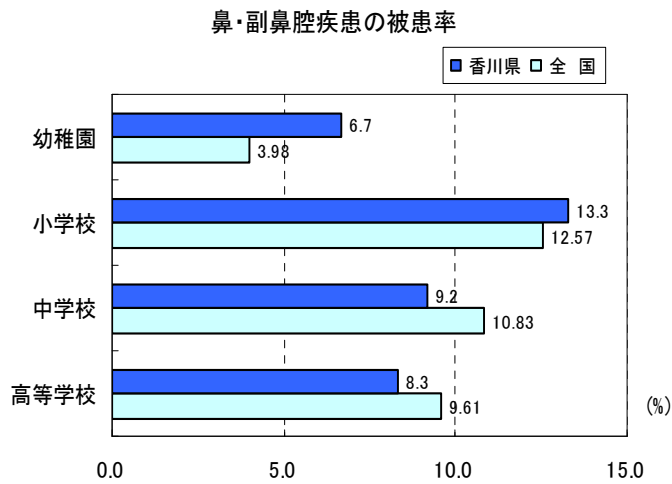
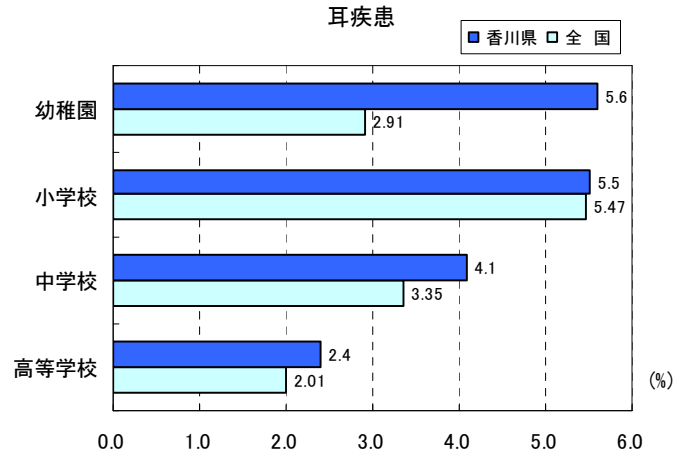
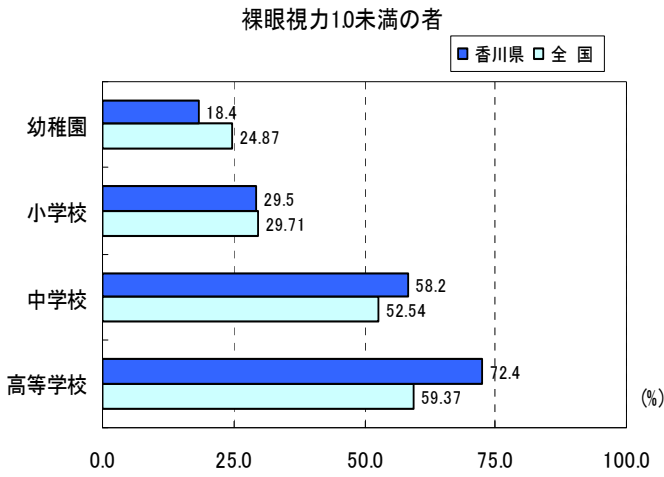
表 8 主な疾病・異常被患率の全国比較

(%)

区分	裸眼視力 1.0 未満 の者	眼の疾 病・異常	耳疾患	鼻・副鼻 腔疾患	むし歯(う歯)			アトピー 性皮膚炎	心電図 異常	蛋白検 出の者	ぜん息		
					計	処置完了 者	未処置歯 のある者						
幼稚園	平成 18 年度	県	20.4	2.1	2.3	4.3	53.6	22.3	31.3	5.2	…	0.2	0.9
		国	24.07	2.16	2.93	3.40	55.20	21.67	33.53	3.77	…	0.54	2.36
	平成 19 年度	県	16.2	2.1	4.6	6.5	59.0	22.3	36.8	3.7	…	0.3	0.7
		国	26.21	2.17	2.57	3.68	53.70	20.67	33.03	3.19	…	0.68	2.23
	平成 20 年度	県	26.3	3.1	5.0	6.4	62.1	21.4	40.7	4.4	…	0.7	1.0
		国	28.93	1.92	2.80	3.78	50.25	20.34	29.91	3.54	…	0.49	2.65
	平成 21 年度	県	18.4	3.2	5.6	6.7	54.3	20.5	33.9	3.3	…	0.5	0.7
		国	24.87	2.10	2.91	3.98	46.50	18.77	27.72	3.11	…	0.62	2.15
小学校	平成 18 年度	県	26.0	4.7	5.9	13.0	71.8	37.7	34.1	5.2	3.6	0.7	3.7
		国	28.36	4.72	4.87	11.94	67.80	32.87	34.93	3.62	2.32	0.67	3.74
	平成 19 年度	県	27.8	3.8	7.0	10.1	70.2	38.0	32.1	4.4	3.8	0.6	2.9
		国	28.07	4.76	5.13	11.99	65.47	31.21	34.26	3.64	2.49	0.66	3.91
	平成 20 年度	県	26.0	3.6	5.9	14.6	66.0	34.8	31.2	4.5	3.6	0.7	3.5
		国	29.87	5.10	5.23	11.86	63.79	30.89	32.90	3.49	2.67	0.69	3.89
	平成 21 年度	県	29.5	4.2	5.5	13.3	65.0	34.5	30.4	3.7	4.5	0.6	2.5
		国	29.71	5.27	5.47	12.57	61.79	30.32	31.47	3.31	2.51	0.81	3.99
中学校	平成 18 年度	県	52.1	3.5	3.2	6.3	59.5	36.9	22.5	3.6	3.7	2.7	3.2
		国	50.13	4.87	3.13	10.67	59.66	31.93	27.73	2.76	3.34	2.27	2.95
	平成 19 年度	県	52.8	3.9	4.8	11.6	55.3	35.3	20.1	2.9	3.1	1.6	3.1
		国	51.17	4.25	3.33	11.14	58.06	30.96	27.10	2.79	3.24	2.41	3.08
	平成 20 年度	県	54.5	3.3	3.9	8.0	52.5	33.9	18.6	2.9	4.0	2.3	2.5
		国	52.60	4.48	3.55	10.82	56.00	30.36	25.64	2.66	3.45	2.49	3.00
	平成 21 年度	県	58.2	3.9	4.1	9.2	54.6	33.6	21.0	2.8	3.7	1.1	3.3
		国	52.54	4.90	3.35	10.83	52.88	28.79	24.09	2.58	3.28	2.46	2.96
高等学校	平成 18 年度	県	X	2.7	2.2	12.6	72.0	44.3	27.6	2.8	5.3	2.0	2.0
		国	58.65	3.10	1.67	8.18	70.06	39.43	30.63	2.25	3.51	2.43	1.71
	平成 19 年度	県	X	2.3	1.6	5.6	70.0	45.1	24.9	2.7	4.8	2.2	1.9
		国	55.41	3.69	1.72	8.43	68.48	38.20	30.27	2.33	3.23	2.49	1.80
	平成 20 年度	県	71.9	3.0	3.0	6.9	65.5	42.0	23.5	3.2	4.0	2.0	2.1
		国	57.98	3.70	2.02	8.81	65.48	35.99	29.49	2.32	3.10	2.82	1.82
	平成 21 年度	県	72.4	3.5	2.4	8.3	62.2	37.3	24.8	3.0	3.8	1.0	1.8
		国	59.37	3.70	2.01	9.61	62.18	34.73	27.45	2.43	3.33	2.88	1.88

(注) 心電図異常については、6 歳、12 歳、15 歳のみ実施している。

図 23 全国との比較



<肥満傾向児・痩身傾向児の算出方法>

性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としています。

算式は以下のとおりです。

$$\text{肥満度} = [\text{実測体重(kg)} - \text{身長別標準体重(kg)}] / \text{身長別標準体重(kg)} \times 100(\%)$$

$$\text{※ 身長別標準体重(kg)} = a \times \text{実測身長(cm)} - b$$

	年齢	係数		男		女	
		a	b	a	b	a	b
幼稚園	5	0.386	23.699	0.377	22.750		
	6	0.461	32.382	0.458	32.079		
	7	0.513	38.878	0.508	38.367		
小学校	8	0.592	48.804	0.561	45.006		
	9	0.687	61.390	0.652	56.992		
	10	0.752	70.461	0.730	68.091		
	11	0.782	75.106	0.803	78.846		
中学校	12	0.783	75.642	0.796	76.934		
	13	0.815	81.348	0.655	54.234		
	14	0.832	83.695	0.594	43.264		
高等学校	15	0.766	70.989	0.560	37.002		
	16	0.656	51.822	0.578	39.057		
	17	0.672	53.642	0.598	42.339		

出典：財団法人日本学校保健会「児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)」平成18年